

風評払拭 高校生考える

復興庁、大崎・古川黎明高で出前授業

東京電力福島第一原発事

故による風評の払拭に向けて若い世代に関心を持ってもらおうと、復興庁は18日、大崎市の古川黎明高（生徒700人）で出前授業を開いた。

今年から募った17人が参加。東日本大震災と原発事故からの復興状況のほか、原発事故の農林水産物の出荷や輸出への影響、原発処理水の海洋放出を巡る議論に関する説明を受け、4班に分かれて風評の払拭に必要な方策を話し合った。

た。

発表では「食べ物の安全性をSNSで発信する」「放射線の正しい知識を身につける」「福島に対する固定観念を変えていきたい」との意見が出た。「先生が福島からの転校生への配慮を呼びかけ、逆に生徒が意識してしまっただ」と、経験を踏まえた発表もあった。

宮城県内の震災被災地でボランティアの経験がある3年佐々木和愛さん(18)は「福島について表面に見えるものしか見ていなかった。

た。もっと知識を得て、できることで力になりたい」と話した。2年白岳航佑さん(17)は「現地を見てもらい、福島のおいしいものを海外にもっとアピールできたらいい」と語った。

出前授業は全国9都道県で開き、東北は同高のみ。11月に一部の高校の生徒らが福島県を視察する。復興庁の由良英雄統括官は「他

地域に比べ自分ごととして感じてくれる。自分の尺度を持って考えるきっかけにしてほしい」と話した。



生徒たちは風評払拭のために国や自分たちができることを話し合った